

韓国・大邱保健大から交換研修生



ウェルカムパーティーの席上、日本語で自己紹介する大邱保健大の交換研修生たち

学びと交流に期待膨らませ

韓国・大邱保健大学からの交換研修生8人が来熊し、2日（火）、本学でのウェルカムパーティーに臨みました。

研修生はいずれも2年生で、14日（日）までの研修期間中、本学の講義・実習に参加したり、熊本県内の医療機関、企業、福祉施設を見学したりします。また、サポート学生や韓国文化研究クラブのメンバーとの交流を深めながら、華道や茶道などの日本文化も体験します。

1204・1205会議室で行われたウェルカムパーティーでは、研修生が一人ひとり「はじ

めまして」などと日本語で自己紹介。竹屋元裕学長が「滞在中は、本学学生との交流や日本文化の体験なども楽しんでほしい」と歓迎の言葉を述べました。引き続き、参加者全員で記念撮影を行い、料理を囲んで歓談しました。

母親が日本人というオ・ウンジョンさん（看護学科）は「宿舍から大学までの道がきれいだったのが印象的。期間中は韓国と日本の保健の在り方の違いを学び、帰国後にみんなとシェアしたい」と話していました。

(NL編集部)

タイ・コンケン大の交換研修生を引率

モーリン講師が特別講演会

6月上旬、2週間にわたり本学を中心に学術や文化などの交流を深めたタイ・コンケン大学の交換研修生たち。研修期間中の6月6日（木）にはキャンパステラスで、研修生たちを引率した同大学のモーリン・ウォングワッターナーグン講師による特別講演会が開催されました。

同講師は、フーリエ変換赤外分光法（FTIR）という赤外線を使って物質を分析する方法を用いた研究をしています。セミナーでは、FTIRを、タイで多く発生している胆管癌（生もしくは加熱調理不十分な魚の摂取によって肝吸虫に感染し、さらに持続感染により胆管癌が発生するとされる）の診断に応用した研究結果と、慢性腎臓病の診断・評価に応用した研究結果を紹介しました。両研究ともに非常に興味深い内容で、本学教員との間で活発な質疑応答が行われました。また、講演会冒頭には、コンケン大学を紹介するビデオも上映されました。

特別講演会は初めての試みでしたが、会場のコロシウムスペースは教職員や大学院生でびっしり埋まるほどの盛況。来年に本学で開催される国際シンポジウムへの大きな弾みとなりました。

(国際交流委員会)



自身の研究について講演するコンケン大のモーリン・ウォングワッターナーグン講師

臨床現場で活用できる練習システム確立へ

若手研究
2024-27年

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

宮崎 宣丞 助教

日常生活の基盤をなす移動を行うには、歩行能力の代表的な指標である歩行速度の維持・向上が非常に重要と考えられます。歩行速度の向上には、筋力トレーニングだけでは不十分という報告もあり、速く歩く練習の実施が重要と考えられます。近年では、モニターへ表示された歩行中の関節角度や筋活動などを目安にして歩き方を修正しながら速く歩く練習が行われていますが、三次元動作解析装置が必要であり、臨床実装は難しいという現状があります。

我々は、臨床現場でも扱いやすいウェアラブルセンサーで計測した歩行中の下肢の関節角度をリアルタイムに

ブザー音で知らせながら速く歩く練習を行い、若年健常成人において歩行速度の即時的な向上を報告しました。異動のタイミングで幸運にも科研費を獲得することができましたので、皆さまのご協力やご助言をいただきながら、研究のフィールド作りから取り組み、高齢者での効果検証につなげたいと思っております。

本研究を通して、臨床現場で活用できる客観的かつオーダーメイドな歩行練習システムの確立、様々な歩行障害に対するリハビリテーションの発展に貢献できたらと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

ハンドボール女子のオムロンピンディーズ

日本リーグ制覇に向け体力評価

健康・スポーツ
教育研究センター

レポート

本学と包括連携協定を結んでいるハンドボール女子の強豪、オムロンピンディーズの選手20人を対象とした体力評価を6月22日（土）、チーム本拠地のオムロン鹿陽センター（山鹿市）で実施しました。

評価項目は、30m走、ハンドボールアジリティ、VBTデバイスでのジャンプ力など10項目にわたり、健康・スポーツ教育研究センター教員の指導の下、理学療法学専攻スポーツリハビリテーションコースの学生7人と大学院リハビリテーション領域の院生3人、朝日野総合病院の理学療法士1人が計測にあたりました。

同チームとは2023年度に包括連携協定を締結し、定期的にデータ計測と分析を行っています。チームトレーナーと課題を共有しながら測定項目を作成し、効果的なトレーニングを実施することで選手たちのパフォーマンス向上や障害予防につなげ

たいと考えています。

オムロンピンディーズは、「より強く、より美しく」というスローガンを掲げています。

2024-2025シーズンはチーム名を「熊本ビューストピンディーズ」と改め、11年ぶりの日本リーグ制覇を目指します。（中村祐貴）



20歳切り返し走りに挑む
ピンディーズの選手

私の秘話 ★
ヒストリー

就職・実習支援課

山口 新平さん

コロナ禍で結婚しました

2021年9月に結婚しました。当時はコロナ第5波のピークで緊急事態宣言下でもあったため、結婚式と新婚旅行は通常実施ができませんでした。そこで、結婚式はフォトウェディングをすることにしました。カメラマンや衣装などの打ち合わせが大変でしたが、完成したアルバムを見るとやってよかったなと素直に思います。

そして新婚旅行は、宣言解除後に全行程を車のみで移動するツアーを計画しました。1日目は山口の下関で海鮮を食べ、

長門湯本に1泊。2日目は秋吉台と錦帯橋を訪問。3日目は広島でお好み焼きを食べ、厳島神社に参拝しました。厳島神社の鳥居が改修工事中で見れなかった小ハプニングと、広島から福岡へ帰る際、道を一本間違えた瞬間にカーナビが経路を再考できずにフリーズし、ナビなしで福岡まで帰るという大ハプニングがありましたが、どちらもいい思い出となりました。いつどのような状況でも楽しく過ごせるように心掛けたいと感じた経験でした。





リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の大塚裕一教授と宮本恵美准教授の編著による『クリア言語聴覚療法 2 失語症』が6月下旬に出版されました。

言語聴覚士を目指す学生を対象とした「クリア言語聴覚療法」シリーズ（全11巻）の第2巻。2000年に刊行された前身の「言語聴覚療法」シリーズの内容を一新したものです。執筆陣には、大塚教授らが「新進気鋭の若手」を起用。本学関係では、大塚教授と宮本准教授が主に失語症の臨床に関する項目を執筆しているほか、永友真紀講師も失語症の定義や原因などの基礎的知識を集めた章を担当しています。

大塚教授によると、編集にあたっては、可能な限り学びの流れがイメージできるようにと、目次の並びに腐心したといいます。専門書ながら、学生の側に立った平易な表現を心がけ、側注で難解な専門用語を解説する配慮も。済生会熊本病院の稲富雄一脳神経内科副部長から提供された失語症に関連する脳画像をはじめとした図表も多く取り入れ、視覚的に理解しやすいレイアウトとなっています。

大塚教授は「（前身シリーズ刊行から）約20年の間の医療の進歩や学生気質の変化を考慮しながら1年半かけての編集作業でした。学会内での評判も良く、ぜひ手に取ってほしい」と話しています。

（税込み3300円）＝NL編集部

OT 3年「応用発達支援作業療法学」

SO日本・熊本が“出前講義”

スペシャルオリンピックス日本（SO日本）・熊本の竹屋純子副理事長、原幸代子専務理事と、障害を持ちながら競泳の選手兼コーチを務める桑畑宣雄さんが6月25日（火）来学し、リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の学生たちを前に講義をしました。

昨年5月に本学とSO日本・熊本が締結した包括連携協定の一環。3人は同専攻3年次生40人が履修する「応用発達支援作業療法学」（2208M講義室）にゲストスピーカーとして登場しました。このうち、桑畑さんは、初めは泳げなかったことや、仕事をしながら練習や指導を行っていることなど、自身のこれまでの歩みなどを紹介。竹屋副理事長は、4月28日～5月26日に開催されたSO日本の熊本地区大会の概要や、同大会のボウリング競技で、目の見えないアスリートをサポートしたボランティアについて話しました。



学生を前に自身のこれまでの歩みなどについて語る桑畑さん（左）

アスリートに付き添うボランティアを紹介する動画も上映。最後に原専務理事が10月12日（土）、13日（日）に益城町で開催されるSO日本の九州・沖縄ブロック大会熊本大会へのボランティア参加を呼びかけました。（入試・広報課）



短冊に願いを込めて

今週の1枚

7月7日は七夕。学生会恒例の七夕飾りが、ことしも1日（月）から1週間、学内を彩りました。50周年記念館入り口など3カ所に設置された笹竹には、「国家試験、就職試験に合格しますように」、「宝くじが当たりますように」など、学生たちのさまざまな願い事が。

皆さんの願いが天に通じますように！

住民に寄り添いながら、歩行速度を測定する学生（左）



■水上村で地域作業療法演習 生活機能療法学専攻3年生40人が6月26日（水）、地域作業療法学演習の一環として水上村の住民に対して心身機能の評価を行いました。現地に到着後、2つのグループに分かれて実施。覚井地区を受け持ったグループは、歩行速度、バランス、握力、認知機能などを測定していました。学生たちは、住民へのコミュニケーションや器具の準備など、9月に行われる評価実習へのイメージを膨らませながら熱心に取り組んでいました。（入試・広報課）

インフォメーション

週間行事予定（7月9日～16日）

7/9（火）	学内献血（レストラン前）
7/11（木）	大学訪問（大津高校）
7/14（日）	7月期オープンキャンパス